ともしび

第134号
平成24年１月１日

題字は（故）黒川利雄博士

がん検診の申込 忘れずに！！

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2011
（富谷町役場前特設広場）

目　次

新春のご挨拶……2
「がんで死なないために－がん検診のすすめ－」…3
イベント紹介……10
よろこびの会活動報告……15
がん相談・がん受診券ご案内……16
ご寄付をいただいた方々……17
「黒川利雄がん研究基金」ご案内……20

検診の特色

- 高い精密検査受診率と
  高い早期がん発見率
- 専門医療機関紹介
- 高い信頼性に基づく精度管理
- 一貫したデータ管理

財団法人　宮城県対がん協会

新春のご挨拶

財団法人 宮城県対がん協会
会長　久　道　　茂

新年明けましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という未曾有の災害が発生し、宮城県をはじめ多くの地域で人命が失われ、家屋、会社・事業所、学校、病院などの公共施設も破壊されました。本当は、新年を寿ぐという気分にはなれず、喪に服したい心境です。しかし、気を取り直して考えてみると、折角災害から逃れることが出来た命を、がんで死亡しないようにすることも大切です。被災地住民の人口減や他地域への避難生活、転居などからがん検診受診者も大幅に減少しました。このことに意気消沈してはいられないのです。立ち上がって前進することが重要です。

本協会の使命は、人々ががんにならないように予防する対策、また、がんになってもそれで命を落とさないですむように早期発見・早期治療のための精度の高いがん検診を普及することです。そのために、がん検診センターの医師を中心に各種診断委員会の先生方や技師、保健師、病歴管理士や事務職員らが協会独自の研究費や厚生労働省などの外部研究費を得てがん予防や検診に関する研究を行っていますし、黒川利雄がん研究基金を用いて全国に公募し、若手がん研究者に対する研究助成も行っています。さらに、数年前から行っているがん患者やその家族の心配事に応じるための医師による「がんなんでも相談」や、昨年から始まった宮城県の委託事業「宮城県がん総合支援センター」を協会内に設置し、在宅で療養中又は外来通院されているがん患者さんやその家族の方々、在宅でがん患者さんの診療、看護、介護などに携わる関係者の方々を支援する仕事も行っています。

創立以来50数年、多くの方々の命を救ってきた自負心と誇り高い仕事に協会役職員と共に、自分も参画出来たことに深い感銘を覚えます。これまでにも多くの困難が数々ありました。財政的にも人材的にも全くよちよち歩きのがん対策事業がよくぞここまで続いたものだと思います。多くのよき理解者の方々のお蔭と言っても過言ではありません。

宮城県対がん協会は、これまでの事業をあらためて振り返り、新しい法律（新公益法人３法）に適合する事業と組織のありようを検討し、昨年９月30日、宮城県公益認定等委員会の答申書が知事宛に出され、「法に規定する認定の基準に適合すると認めるのが相当である」との判定を頂きました。その結果、本協会は本年４月１日をもって新公益財団法人へ移行する事になりました。今後とも関係者のご指導とご協力を切にお願いし、がん対策の目標に向かって役職員一同邁進する覚悟であります。本年もよろしくお願いします。

「がんで死なないために
―がん検診のすすめ―」

財団法人 宮城県対がん協会会長　久　道　　茂 先生

1．なぜがん検診をやるの？

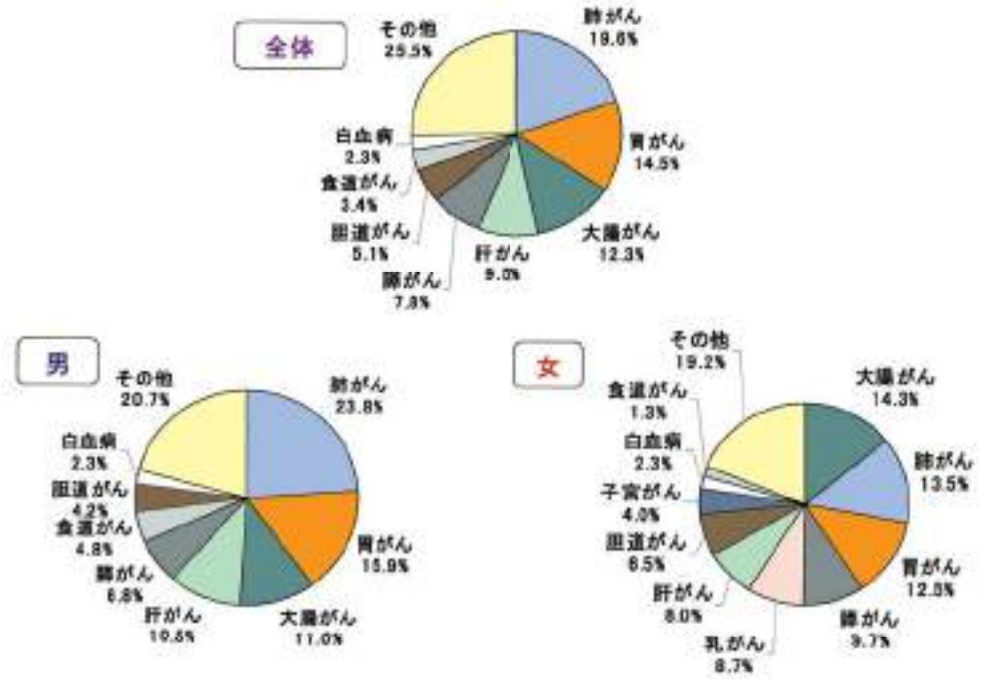
ｉ日本におけるがんに関する統計

わが国のがん死亡者数は年間 346,523 人（人口動態統計 2007 年）で、全死亡の 31.2% を占め死亡第１位です。日本人の３人に１人ががんで死亡していることになります。一方、がんになる人（罹患者といいます）は年間約 53 万人（男性が 30.5 万人、女性が 22.5 万人、地域がん登録推計値）もおります。一生涯でがんになる人は（これを生涯リスクといいます）、男性が 46.3%、女性が 34.8%で、日本人の男性２人に１人、女性３人に１人ががんになるのです。

臓器別のがん死亡数の割合を男女別に表したのが図１です。男女合わせて最も多く死亡するがんは、肺がん（19.6％）です。次いで、胃がん（14.5％）、大腸がん（12.3%）、肝がん（9.5%）、膵がん（7.8%）と続きます。男性では、1 位はやはり肺がん（23.8%）で、次いで胃がん、大腸がん、肝がん、膵がんとなります。女性では、1 位が大腸がん（14.3%）、次いで、肺がん、胃がん、膵がん（9.7%）で、その後に乳がん（8.7%）がきて、子宮がんは 8 位（4.0%）となっています。近年、テレビ、新聞などのマスコミでよく報道され、かつ国の政策である検診無料化によって、がん検診受診の PR が盛んに行われているのは主に女性のがんですが、この図を見ても分かるように、日本では男女共に胃がんや大腸がんなどの消化器がんがまだまだ重要なのです。

ちなみに、宮城県ではがん死亡者数は年間（2006 年）5,890 人（全死亡の 29.8％）で、罹患数は年間 10,956 人（男 6,408 人、女 4,548 人、地域がん登録資料）です。

図１　臓器別がん死亡数の割合



資料　厚生労働省「人口動態統計」平成２１年

ii がんにならない方法（一次予防）とがんで死なない方法（二次予防）

がんにならなければがんで死亡することはありません。したがって、がんにならないことが最も重要です。しかし、これが難しいのです。これまで多くの研究からがんの原因やその発生メカニズムが分かってきました。一部のがんでは、ワクチンによるがん予防が可能になってきましたが、がん全体から見たらまだまだです。がんは、一つの原因だけでなるのではなく多くの原因（要因ともいいます）が重なり合って発生するのです（これを多要因原因説といいます）。たばこ、食事などの生活習慣に関係したものが要因となっているため、がん一次予防は簡単にはいかないのです。これまでも内外の多くの研究機関が「がん予防の10か条」とか「がんを防ぐ12か条」などを発表してキャンペーンをしてきましたが、最近、新しい12か条が出来ました。図2に示しますが（財）がん研究振興財団の「がんを防ぐための新12か条」です。1番目と2番目にタバコのことがあげられています。最も重要だからです。

しかし、がんの発生を完全に防ぐことは不可能ですから、次にやるべきことはがんを早期に発見して早期に治療してしまうことです。これを二次予防といいます。がん検診のことです。がん検診によって多くの方々が救命されています。日本では、古くからがんの集団検診が普及していますので、多くの国民は、その恩恵を受けることが出来るのにまだまだ受診率が低いのはどうしてでしょうか。正しい知識やがん予防の意識がいまいち十分ではないからです。

図2

●（財）がん研究振興財団「がんを防ぐための新12か条」より●

2. がん検診には条件がある！

i 「健診」と「検診」の違い

同じように発音する「けんしん」には二通りの意味があります。「健診」は受診者の健康状態の確認をするために行うもので、何かの病気を発見するものではありません。将来病気になるかもしれない危険要因（リスクといいます）を見つけて病気にならないようにするのが目的です。血圧測定、尿検査、血液検査などを行います。学校健診、妊婦健診、三歳児健診、特定健診などが相当します。

一方、「検診」は何か特定の病気を見つけることが目的です。がん検診、結核検診などです。この場合がんが見つからないような検診方法では意味はないし、極めて頻度の少ないがんや発見頻度の低い年齢の人々に行うことも意味がありません。つまり、がん検診には、次のようなそれを行うための条件があるのです。

ii がん検診の条件（表１）

①**重要性**が高いかどうかです。がんの罹患率及び死亡率が高くなければなりません。検診を行っても、１万人に１人しか見つからないようながんではあまり意味がないのです。

②**効率性**がなければなりません。個人の費用で、自分のがん家族暦などを考慮してがん検診を受ける場合（これを任意型検診といいます）は、高額費用で時間の掛かる検査でもかまわないのですが、行政が（税金を使って）行うがん検診（これを対策型検診といいます）の場合は、集団で行うことが多いので（これを集団検診とかマススクリーニングといいます）、短時間で多くの受診者を検査できなくてはなりません。

③**早期治療効果**がなければなりません。早く見つけても治療方法が確立されていなければ、早期発見の意味はなくなります。また、医学が十分に進歩していないために、見つけた時には既にがんが進行しているようながん（例えばすい臓がん）では、集団検診は馴染みません。

④**検査は安全**でなければなりません。がん検診は、がんを早期に発見するために行うのです。ですから、検査のために出血し合併症が出るようでは困ります。この場合の検査とは、がん検診で最初に行う一次検査だけのことではありません。精密検査に回った人が、その検査で危険な状態になるようではいけません。がん検診のシステム全体から見て「安全」に行われる仕組みが必要です。もっとも、医療には100％安全な検査というのはありませんが、極力危険なことは避けるべきです。ですから、がん検診を受ける前の注意事項はよく読んでおく必要があります。

⑤**検診精度**が高くなければなりません。要するに、がんを見逃さない検査でなければなりません。安かろう悪かろうで、見逃しが多く、せっかく精密検査にまわしたのに、精密検査を受けたかどうかも知らん振りの検診機関であってはだめなのです。いささか受診者にはお節介に思われるくらいに気配りをする必要があるのです。また、自分のところで行った検診がどれほどの見逃しがあるのか、検診の精度をきちんと調べているかどうかが大切です。そのためには、地域がん登録資料を活用することが重要です。

表１

がん検診の条件

1. 罹患率、死亡率の高いがんであること（重要性）
2. 検診に適したスクリーニング法があること（効率性）
3. 早期発見による早期治療効果があること（治療効果）
4. 検診方法（精密検査も含めて）が危険がなく安全であること（安全性）
5. 検診精度が高いこと（測定能力）
6. 検診の目的にかなった有効性があること（有効性）
7. 費用が安いこと（経済性）
8. 総合的にみてメリットがデメリットを上回ること（総合純利益）

⑥がん検診の**有効性**が科学的に明確になっていることが必要です。特に、対策型がん検診では必須といってもいいでしょう。有効性とはがん検診を行ったことによってその地域のがん死亡率が減少したという効果が証明されているということです。現在、日本でおこなわれている数々の検診の中で、有効性が科学的に証明されているものは、胃間接Ｘ線撮影による胃がん検診、細胞診による子宮頸がん検診、マンモグラフィによる乳がん検診、便潜血検査による大腸がん検診、Ｘ線撮影プラス細胞診よる肺がん検診の５つだけです。胃内視鏡による胃がん検診、PSA（前立腺特異抗原）による前立腺がん検診、ペプシノーゲン検査による胃がん検診、超音波による乳がん検診などは、まだ内外の学会などで議論されている状況です。これら４つの検診は、対策型検診として、つまり集団検診としての有効性がまだ解明されていないということであって、無効であるといっているわけではありません。これからの研究によっては「有効」となるかもしれないのです。

⑦集団を対象とし税金まで使うのですから、**検診**

費用は安い方がいいに決まっています。ただし、安かろう悪かろうではいけません。また、一次検診の費用だけではなく、精密検査の費用も含めた**がん発見１名当りの費用**が安くなければならないのです。もっと突き詰めれば、救命１人当りの費用がどうかということになるのです。

⑧がん検診で用いられる検査は、一種の医療行為です。したがって、100％完全ということはありません。見逃しもありますし、検査に伴う合併症も皆無ではありません。つまりデメリットが必ず存在するのです。それでもなおがん検診を行っているのは、救命という極めて価値の高いメリットをもたらすからです。最終的には、**総合的**に見てメリットがデメリットを上回っていれば、行う価値があると**判断**します。

検診の主体者である行政は、これら８つの条件を考えて、対策型検診を行っているのです。

3. がん検診でどれほどがんが発見され救命されているか？

（財）宮城県対がん協会が行っているがん検診で、これまで発見されたがん患者数は表２に示します。胃がん検診が最も古く 1960 年から 2009 年まで受診者数（延べ）7,146,811 人で胃がん発見数は 13,192 人、うち早期がんは 8,262 人です。結核予防協会が行っている肺がん検診は除きますが、５種類のがんについて、総延受診者数は 15,351,333 人で、23,582 人のがんを発見し、うち早期がんは 14,084 人です。

また、年間に救命されるがん患者数は表３に示します。平成 21 年度のがん検診で、胃がん、子宮頸がん、乳がん、大腸がん、前立腺がんの５種合計 669 名を発見しています。もし仮に、365 日毎日検診を行っているとして、１日当り 1.8 名の方々をがん死から救っていることになります。

この他、進行がんで発見されたとしても、がん検診で発見される進行がんの多くは無症状で、より早期がんに近いがんですから、さらに救命者数が増えると推定されます。もし、宮城県でがん検診を行っていないと

表２

これまでのがん検診数とがん発見数（早期がん数）（宮城県）

がん	期間	受診者数（延数）	がん発見数	（早期がん）
胃がん	1960～2009年	7, 146, 811	13, 192	(8, 262)
子宮がん	1961～2009年	5, 655, 940	4, 553	(2, 098)
乳がん	1977～2009年	1, 359, 785	2, 482	(1, 465)
大腸がん	1981～2009年	1, 159, 233	2, 945	(1, 898)
前立腺がん	2001～2009年	29, 564	410	(361)
総 計		15, 351, 333	23, 582	14, 084

表３

がん検診による救命数（平成21年度）

発見早期がん（上皮内がん）数を救命数と算定すると

胃がん	308 名
子宮がん	48
乳がん	105
大腸がん	162
前立腺がん	46
計	669 名

1日 1.8名の救命がんを発見

すると、これだけの数の方々ががんで命を失うことになるのです。ちなみに、がん患者の５年生存率を検診発見がんとがん全体での数値を比較したものがあります（表４）。早期がんでなくても、検診発見がんは生存率が極めて高いことが分かります。ただし、肺がんの場合、検診発見の場合でも５年生存率が41.3％で極めて厳しいものがあります。

話がそれますが、昨年の東日本大震災で多くの方々が命をなくし、また行方不明になってしまいましたが、助かった方々も多くいました。その方々が、今度はがんで命をなくすことがないように、ぜひがん検診を受けられて早期発見・早期治療の恩恵を受けていただきたいと思います。このことは、全被災地の皆さんに伝えたいと思います。

表４

5年生存率(≒治癒率)が高い

5年生存率の比較

	検診発見がん	がん全体	その差
大腸			
結腸	91.4%	59.7%	31.7%
直腸	91.0%	61.3%	29.7%
胃	85.1%	49.2%	35.9%
肺	41.3%	14.0%	27.3%
乳房	91.5%	84.0%	7.5%
子宮	97.3%	74.1%	23.2%

（新たながん検診手法の有効性の評価報告書2001年、p35）

4. がん検診の受診率がまだまだ低い！

がん検診が非常に大切なことは、日本人は誰でも知っています。しかし、知っていることとそれを実行に移すこととは違うようです。個人の意思で、自分のお金で、高額ながん検診を受ける人もいることはいるのですが、それは、ほんの一部に過ぎません。PET によるがん検診のように、10万円以上もする費用は、とても普通の人は出せません。やはり、市町村が行う行政がん検診（対策型がん検診）を活用しない手はないじゃありませんか。

日本は以前検診大国とも言われていたのですが、意外にも、がん検診は欧米や韓国に遅れを取ってしまいました。

ｉ外国に於けるがん検診

表５に外国で国策として行っている国とがん検診の種類について紹介します。欧米で等しくどの国でも行われているがん検診は、乳がん、子宮頸がんおよび大腸がん検診です。胃がん検診は、韓国と日本だけです。それは、胃がんによる死亡率が韓国や日本ではまだまだ上位を占めている重要ながんですが、他の国々ではあまり重要ではなくなってしまったからです。世界的にみると、乳がんと子宮頸がんは最も普及しているがん検診といってもいいでしょう。がんについての基本法が出来ている国は、アメリカ、ドイツ、オランダ、フィンランド、韓国そしてわが国です。日本のがん検診の費用が、受診者個人の負担があるのに対して韓国では国と地方自治体あるいは保険者の負担で行われているのが大きな違いです。

表５　外国における国策としてのがん検診

	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ	カナダ	オランダ	フィンランド	韓国
胃がん								○
乳がん	○	○	○	○	○	○	○	○
子宮頸部がん	○	○	○	○	○	○	○	○
大腸がん		○	○	○	○		○	○
前立腺がん				○				
肝がん								○
がんの法律	○			○		○	○	○
国のみの予算				○		○		
地方のみの予算					○		○	
両方の予算		○	○					○

（平成19年厚労省資料：在外公館を通じた政治担当部局からの回答から）

ii がん検診受診率の国際比較

国際比較は、乳がんと子宮頸がん検診の二つだけになりますが、図３に示します。OECDHealth Date2009 から引用したものですが、国によってデータの年度が違います。しかし、大まかな比較は可能です。この図を見てすぐ気が付かれることは、日本の受診率が極めて低いという事です。欧米の国々が、両がん検診共に 70% を超え、日本が 25% にも満たない数値です。がん検診を後から開始した韓国よりも低いのです。これでは折角のがんから命を守る方法を活用していないことになります。

図３　がん検診の国際比較

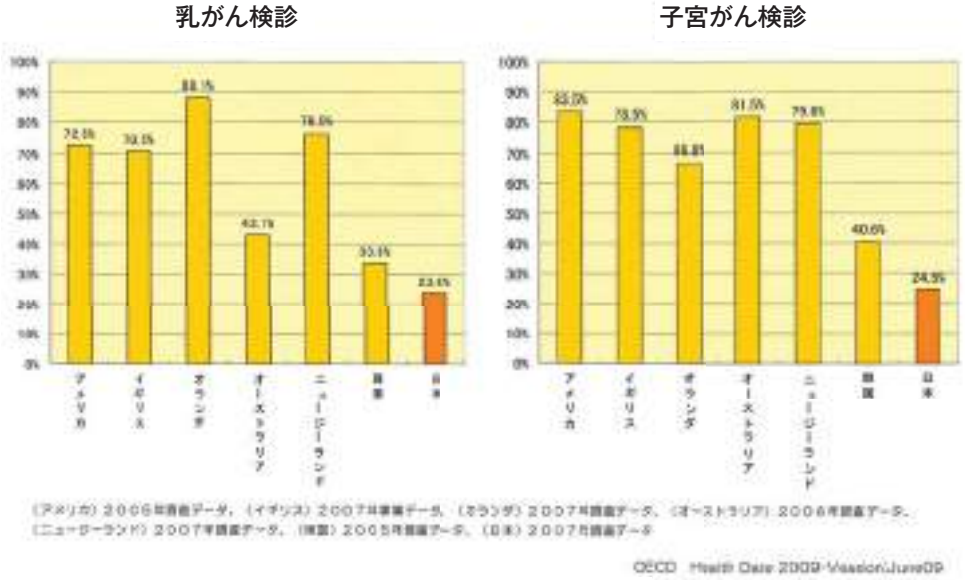
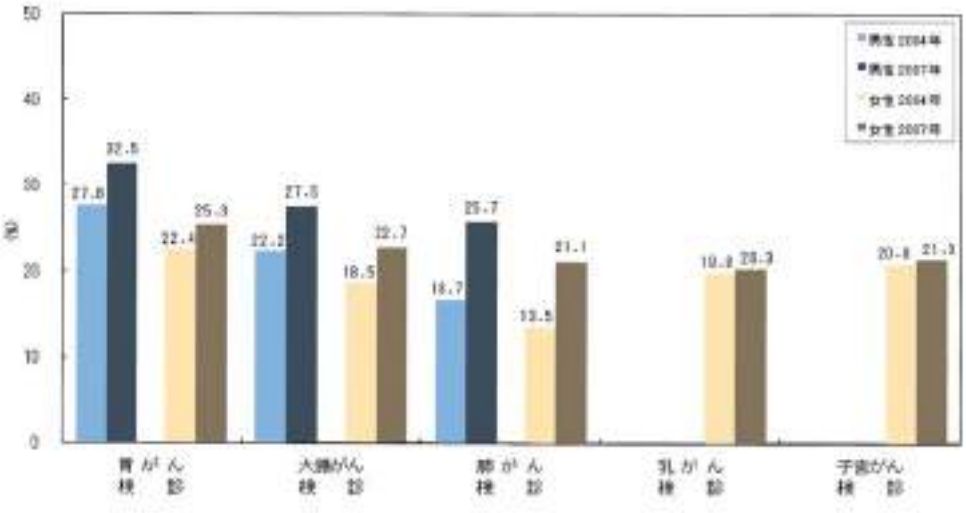


図４　がん検診受診率の推移（2004 年、2007 年）

＊国民生活基礎調査より国立がんセンターがん対策情報センターにて作成



○胃がん、大腸がん、肺がん、乳がんは40歳以上、子宮がんは20歳以上を対象。
○健診等（健康診断、健康診査及び人間ドック）の中で受診したものも含む。

iii わが国と宮城県のがん検診受診率

日本のがん検診のデータは、これまで厚生労働省が集計する対策型検診、いわゆる行政検診の数値だけを集計したものでした。したがって、この中には個人的に受診した人間ドックの中に含まれるがん検診や職域で行われるがん検診の受診者数は含まれておりません。アメリカのがん検診受診者数の把握は３万人ぐらいの抽出した人々に対して詳しい受診状況をアンケートで調査したものです。そのた

め、日本のデータとは調査と集計の仕方が異なるので厳密な意味では比較にならないのです。一方、わが国の国民生活基礎調査では簡単ではあるのですが、がん検診受診率を欧米と比較可能な形で調べております。図4は、わが国のがん検診受診率を、国民生活基礎調査から得られた数値を2004年と2007年の推移をみたものです。これには厚生労働省、自治体が行ういわゆる行政検診（以前は老人保健法によるがん検診といっていました）以外に個人的に受診した人間ドックや職場でのがん検診受診者も含まれます。それでも各がん検診で受診率は低く最も高い胃がん検診で30%前後、残りは20%前後という低調です。それでも2004年に比べて2007年には幾分高くなっていることが救いです。

表6は、日本の平成19年国民生活基礎調査の折に宮城県民に対して同様に調査した受診率を併記し、その時の都道府県別受診率順位を示したもので、併せてアメリカのHealthyPeople2010の数値を入れたものです。宮城県の受診率が全国平均と比べて大幅に高いことが分かると思います。ちなみに、大腸がん（男女計）の第1位は山形県、2位は秋田県です。胃がん（男女計）では、1位はやはり山形県です。それでも乳がんや子宮頸がん、大腸がんでは、アメリカの受診率には及ばないのです。

表6

がん検診の受診状況

	日本	宮城	アメリカ
	2007年	2007年	2005年
大腸	25%	34%（第3位）	35%（2年間）
胃	28%	42%（第2位）	
肺	23%	35%（第2位）	
乳房	20%	33%（第1位）	72%（2年間）
子宮	23%	32%（第1位）	83.5%（3年間）

日本）平成19年国民生活基礎調査より
米国）Healthy People 2010より

5. 宮城県がん対策推進計画の目標を実現しましょう

平成19年、わが国ではがん対策基本法を施行し、がん対策推進基本計画を策定しました。関連して全国の各都道府県ではがん対策推進計画を作りました。宮城県でも平成20年3月に策定し、その中でがん検診の受診率及び質の向上を掲げ、具体的に受診率の数値目標を公表しました。「5種のがん検診受診率を平成23年度までに70%以上とする」としたのです。国の計画が50%としているのに対して大幅に高い目標です。その根拠は、平成17年に行った宮城県民健康栄養調査（国民生活基礎調査対象地区からの無作為抽出調査）のデータで、当時の受診率が、胃がんで45.7%、肺がんで61.6%、大腸がんで43.0%、子宮頸がんで38.2%、乳がんで37.0%となっていたため、既に50%に近い数値を示す胃がんがあり、また60%を超えている肺がんがあることから、いくら国の方針が50%を目標としているとしても、宮城県の現状を下げることは出来ないという事で、70%としたのです。

がん検診の質の向上に関しては、「すべての市町村において、事業評価が実施されるとともに、科学的根拠に基づくがん検診が実施されること」をうたい上げました。検診だけ行っても早期がんの発見率が低いようながん検診では意味がないからです。

県の計画の目標年度は平成23年度ですから、もう1、2カ月で期限が来てしまいます。昨年3月に発生した東日本大震災のために、私ども宮城県対がん協会の行っているあらゆるがん検診は、受診者数の減少が余儀なくされました。前年度の30%減が予想され、県の掲げた受診率70%は全く達成できそうにありません。しかし、多くの自治体は、震災の後遺症にもめげず、せっかく救われた命を、今度はがんで亡くすことの無いように、住民のがん検診受診率を上げようと努力しております。対がん協会の職員も様々な困難を乗り越えて努力しておりますし、これからも皆さんと一致協力してがん検診受診率向上のためにがんばる所存です。

この冊子をご覧になった方々も、ぜひ自分の健康、自分の家族の健康を守るために日本対がん協会の標語「がん検診、受けて晴ればれ誕生日」「声かけて地域ぐるみでがん検診」をぜひ実践してください。

がん征圧月間行事

＊パネル展

「がん」の一次予防･二次予防を解説した予防パネル展をがん征圧月間の９月５日から16日までの12日間、宮城県庁１階ロビーにて、また、９月27日は仙台市民会館地下小ホールにて、９月29日は仙台国際センターにて開催しました。

＊懸　垂　幕

９月が「がん征圧月間」であることを多くの方に知っていただき、自分の健康を再認識していただくために、仙台市役所・青葉区役所・泉区役所に懸垂幕を掲げました。

＊術後者研修会

９月27日（火）「宮城県立がんセンターがん何でも講座」を仙台市民会館に招き、同センター薬剤部富塚先生による「正しい薬の飲み方について」と題して講演を開催しました。

食間とは？薬は何で飲みますか？柑橘類と薬の関係、薬を飲み忘れたときは？等々知っているようで知らなかったことばかりでした。

薬を正しく飲むことは病気を治療する上で大切なことで、副作用を減らすことができるので、正しく服用し楽しく豊かな生活を送りましょうと締めくくりました。

＊がん講演会

９月29日（木）仙台国際センターにおいて平成23年度がん征圧月間のがん講演会として、（「記念講演会」が行われ）日本対がん協会のほほえみ大使でもある歌手のアグネス・チャンさんによる「明るくさわやかに生きる」～アグネスが見つめた生命～と題した記念講演がありました。

その中でご自身も乳がんを患い治療を受けられたアグネス・チャンさんが、まだまだがん征圧の道は長く課題も多い。２人に１人が「がん」になり、３人に１人が「がん」でなくなっている今、「がん」はけっして他人事ではありません。ただ、こうして今日私が皆さんの前に元気な姿で立つことが出来るのは、早期に発見し治療を受けることが出来たからです。小さいうちに見つけるためにも皆様には定期的な検診受診をお願いしますと話されました。

イベントへの参加

＊街頭活動委員会

白石市夏祭りパレード

８月 11 日（木）に白石市で開催された夏祭りパレードに参加しました。当日は多数の団体の参加があり、市中心部１キロのコースを、仮装を含めた思い思いの服装・PR 方法で行進をしました。対がん協会は揃いの黄色いＴシャツ姿にのぼり旗を持ち検診受診を訴えながらの参加となりました。多くの方に対がん協会を知っていただく良い機会でした。

＊2011 ピンクリボンスマイルウォーク仙台

10 月 29 日（土）に今年で６回目となるピンクリボンスマイルウォークが晴天の下 1,600 人の参加者を集めて開催されました。

出発式には、地元の東北ゴールデンエンジェルス、ベガルタチアリーダーズ、仙台ベルフィーユ、仙台ガールズプロレスリングの皆さんが駆け付け、華麗な演技を披露いただきました。

参加者は、仙台市内を巡る６Ｋのコースを気持ちよさそうに歩きスマイルウォークを楽しみ、サブイベントでは上杉山通小学校のブラスバンド演奏や未知ノ国守ダッチャーショーが行われ、会場の勾当台公園は大いに盛り上がりました。

プロフィギュアスケーターの八木沼純子さんと東北大学教授の大内憲明先生による乳がんの早期発見の大切さを伝えるトークショーでは、参加者が２人の話に熱心に耳を傾けました。イベントの最後には歌手の大島花子さんによるミニコンサートが開催されました。大島さんは坂本九さんの長女で「上を向いて歩こう」などが披露され、澄み切った歌声に皆聞き入っていました。

これからも、早期発見・早期治療の大切さ、検診の必要性を伝えるピンクリボンスマイルウォークに期待します。

平成23年度健康まつり

栗原市みちのく伝創館

10/16（日） くりはらキッズ＆健康まつり

「地域みんなで栗原の子どもたちを健やかに育てよう！
健康づくりの輪を広げて元気になろう！」【担当】がん予防コーナー担当

大崎市古川保健福祉プラザ

10/22～23（土・日） 第６回大崎市健康と福祉のつどい

「地域で支え合い、健康で元気なまちづくりの実現を目指して」
【担当】がん予防コーナー担当

ハナトピア岩沼

10/29（土） いわぬま健幸まつり
～東日本大震災復興祈念・市制施行 40 周年記念～

「“健幸”先進都市を目指して！」【担当】がん予防コーナー担当

まほろばホール

11/5（土） 健康たいわ 21 推進大会
～明るく元気で生きたいわ～

「健康づくりと食育、命の大切さを考えていただく大会を目指して」
【担当】がん対策ＰＲ、がん検診受診率向上への協力

丸館中学校

11/27（日） 健康と福祉のつどい
～地域のつながり、みんなの笑顔～

「健康で互いに支え合うまちづくりを目指して」
【担当】がん予防ＰＲ担当

宮婦連ブロック研修会

宮婦連では、毎年県内を７つのブロックに分けて研修会を開催しています。この研修会の趣旨は、高齢化、少子化、男女共同参画社会、環境、青少年の健全育成等の多くの問題を考え、新しい世紀の確かな発展を願い、心豊でゆとりある地域社会を育てることが目的の勉強会です。

宮城県対がん協会もそれぞれの会場で講話の時間をいただき、今年は**「免疫力を高めて“がん予防”」**と題して保健師から講話をさせて頂きました。

平成23年度 宮婦連ブロック研修会

宮城県対がん協会テーマ

免疫力を高めて“がん予防”

ブロック	月日（曜日）	場所・時間
栗原ブロック	7月13日（水）	若柳ドリームパル
登米ブロック	7月14日（木）	みやぎ婦人会館
大崎ブロック	9月2日（金）	加美町小野田文化会館
石巻ブロック	9月6日（火）	みやぎ婦人会館
中央ブロック	9月14日（水）	大和町まほろばホール
気仙沼ブロック	9月24日（土）	みやぎ婦人会館
大河原ブロック	9月30日（金）	角田駅オークプラザ

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2011 in みやぎ

宮城県のリレー・フォー・ライフは今年で三年目を迎え、９月17（土）、18（日）に昨年と同じく富谷町役場前特設会場にて開催されました。当協会からは約70名の参加がありました。三度目の開催とあって、徐々にこのイベントが周りの人々に浸透してきていると感じつつ、24時間がんと闘う患者のことを思いながら、患者を応援する気持ちで歩きました。ともに歩く仲間がいることで、仲間の存在の大きさを感じました。一人では歩き続けると大変な面もありますが、仲間と歩くことができたからこそ最後まで頑張れたのだと思います。

フィールドを囲み灯されたルミナリエのメッセージを一つひとつ読みながら歩き、がんを撲滅しよう、ともにがんばろうという思いが伝わってきました。今年は未曽有の震災もあり、よりいっそう強い思いをルミナリエの言葉から感じました。会場の中央に描かれたルミナリエを役場庁舎の三階から眺めると「ＨＯＰＥ、絆、みやぎ」という言葉が表れて心に響きました。ルミナリエを書いた一人一人の思いが強く会場内を照らしている中で歩けたことは、とても感慨深いものがありました。

また、仙台医療センター産婦人科部長の小澤信義先生による子宮頸がん予防ワクチンと子宮がん検診についての講演がありました。ワクチン接種と子宮がん検診を受けることで、がんの早期発見が可能になりがんで命を落とすリスクを下げられます。安心して日々の生活ができるように、毎日笑顔で過ごすためにも今一度検診の重要性を振り返ることができ、予防ワクチンの機会を有効に利用することが自分の体を守る最良の方法だと思いました。

リレー・フォー・ライフは歩いた距離を競うものではありませんが、参加団体の中では当協会は個人の部と団体の部とともに周回数の多さで表彰していただくことができました。これもがん征圧に対する職員の熱き思いが形となって表れたおかげだと思います。今年は震災があり甚大な被害を受けました。その中でともに立ち上がり一つのことを最後までやり遂げることで、多くの人と繋がることができたと感じました。また来年、再来年とこのイベントが多くの人に知られ参加者が増えることを願います。

業務管理課　椎名由実

平成24年度 がん検診事業説明会

平成24年度がん検診事業説明会が、10月14日（金）フォレスト仙台（仙台市青葉区）において、県内市町村から検診事業を担当する主管課長はじめ保健師並びに担当者の方々、約50名の参加をいただき開催されました。

はじめに、3月11日の東日本大震災により亡くなられた方のご冥福と被災された皆さまに対し、参加者全員で黙祷を捧げました。

続いて、加藤事務局長から平成24年度の各種がん検診事業計画について、これまでの検診方式を継承し一次検診から精密検査および事後管理までの一貫した検診体系と精度管理に重点をおいたがん検診を実施することを基本として、検診計画を策定している旨を説明しました。

また検診精度について、費用対効果の面から解説し「がん死亡を防ぎ」「がん発見費用の安いがん検診」を発展していくために、今後も市町村、医師会等の特段の協力をお願いしました。

その後、島田がん検診センター副所長から「平成23年度がん検診推進事業」（大腸がん検診）について、事業の概略と当協会の対応について説明を行いました。

午後のがん予防研修会では、渋谷がん検診センター所長から、「最近の胃がん検診の話題について」と題して講話がありました。

各種がん対策・診断委員会

各種がん検診の対策委員会および診断委員会を、定期的かつ必要に応じて開催し、がん検診の体系化の確立および検診方式並びに診断方法等を検討するとともに、症例検討会等を行い診断技術の向上に努めています。

主な委員会	
胃がん対策委員会	乳がん対策委員会
胃集検診断委員会	乳がん診断委員会
婦人科検診診断委員会	宮城県肺がん対策協議会
大腸がん対策委員会	宮城県肺がん診断委員会
大腸がん診断委員会	前立腺がん対策診断委員会

平成23年度 第2回防災訓練

H23.11.25、仙台市青葉消防署員立会いのもと、防災訓練を行いました。検診センター1階からの出火、停電を想定した避難訓練に引き続き、119番通報訓練、消火栓とホースを使用した放水訓練を行いました。3月の東日本大震災を経験したことで職員の防災意識はさらに高まり、今まで以上に真剣に取り組みました。今回の訓練では新たな課題もみつかったため、今後も改善しながら繰り返し訓練を行っていきたいと思います。

よろこびの会活動

全国よろこびの会

がんの克服者で組織する全国よろこびの会の第29回総会が、山形県天童市天童温泉「ほほえみの宿滝の湯」において、１道８県の会員をはじめ関係者170余名が参加し盛大に開催されました。

当日、会の発展や普及啓発等に尽力いただいた10名に全国よろこびの会会長賞が贈られました。また、吉村美栄子山形県知事より励ましのお言葉をいただき、続いて梅津保一先生の「おくのほそ道への誘い」と題した特別講演を拝聴しました。

次年度は茨城県にて開催予定です。

みやぎよろこびの会

第44回みやぎよろこびの会大会が開催されました。

今回は、会の発展に寄与された3名に会長賞が手渡され、また、術後10年を経過した9名に「いのち尊し」の記念色紙が手渡されました。

その後の情報交換会では、趣向を凝らしたアトラクションが披露され、終始和やかに進行しました。

◉支部活動

【登米市連絡協議会】会員29名が参加した交流会を鳴子温泉にて開催し、楽しい一夜を過ごしました。次回は登米市内にある「道の駅巡り」を計画しております。

【丸森支部】会員同士の交流をはかるため、青空のもと“第二回みやぎよろこびの会丸森支部いも煮会”が町内不動尊公園キャンプ場で、開催されました。

【栗原市連絡協議会】栗原市連絡協議会が主催する新規会員加入の呼びかけを兼ねた「第三回親睦ゲートボール大会」が一迫総合運動公園で開催されました。今回は17チームが参加し好ゲームが続きました。

【仙台泉支部】ピンクリボンフェスティバルのオープニングセレモニーに参加し、スマイルウォーク仙台のＰＲ活動を行いました。

【仙台青葉・泉支部】がん検診啓発行進に参加し、早期発見早期治療の大切さをアピールしました。

◉茶 話 会

宮城県がん総合支援センターの専任看護師による「茶話会」を各支部にて開催しました。

【米山支部】話題提供「あなたの大切にしていることは何ですか」～質疑応答
【瀬峰支部】話題提供「あなたの大切にしていることは何ですか」～質疑応答
【中田支部】講話「最期まで自分らしく生きるために」～情報交換
【山元支部】講話「体験者ならではの気持ち」～体験発表
【瀬峰支部】講話「日常生活のセルフ・コントロール」～質疑応答

よろこびの会のご紹介

ひとりで悩んでいませんか？～「がん」克服者の集い『みやぎよろこびの会』～

私たちはがん検診を受け、早期にがんを発見され克服しました。
私たちは、がん検診の大切さを訴えるとともに仲間同士の親睦をはかっております。

みやぎよろこびの会事務局
㈶宮城県対がん協会法人事業課内
【TEL】022−263−1637【FAX】022−263−1548
【E-ﾒｰﾙ】office@miyagi-taigan.or.jp

無料! 「がんの悩みや不安を気軽に相談しましょう」“がん相談”のお知らせ!!

「がん総合相談」のご紹介

宮城県対がん協会のがん総合相談

宮城県対がん協会は、**医師による無料**の「がん総合相談」を行なっております。

ご家族の治療法や生活、セカンドオピニオンの受け方や患者の支え方など、ご本人やご家族のさまざまな悩み、不安、疑問などの相談に応じます。

完全予約制ですので、電話でお申込みいただき相談日を調整させていただきます。相談は面談方式で、時間はお一人様30分までとさせていただきます。

相談は無料ですので お気軽にご予約 ください。

宮城県仙台市青葉区上杉５－７－３０
お問い合わせ・予約申込　宮城県対がん協会
022-263-1525（平日10：00～17：00）
面談日時を調整させていただきます。

「がんなんでも相談」のご紹介

宮城県がん総合支援センター

宮城県対がん協会は、**専任の看護師による無料相談**「宮城県がん総合支援センター」を設置して、面談、電話、ＦＡＸ、Ｅメールで対応しております。

○がんと診断された方の不安や問題に対して情報をさがすお手伝いをします。

○患者さんやご家族の方、医療関係者の方々、どなたでもご利用できます。

どんなお悩みでも かまいません。 一度お電話ください。

【受付】
電話022-263-1560（平日9：00～16：00）
FAX 022-263-1548
Eﾒｰﾙ zaitaku-gan@miyagi-taigan.or.jp

あなたの大切な方へのプレゼントに！ おトクな がん検診受診券 はいかがですか？

財団法人 宮城県対がん協会

がんは身近な病気なのに、なかなか自分から検診に行くことが少ないのが現状です。定期的に「がん検診」を受けることで、「がんの早期発見」が可能になるのです。
大切な人をがんから守るために、料金がお得な「がん検診受診券」をプレゼントしませんか?

受診券を使ってコースで受けると約50%～20%お得です!

男性にオススメのコース　4つのコースからお選びください。　例えば約35%OFF!

検診内容		男性Aコース 10,000円	男性Bコース 15,000円	男性Cコース 15,000円	男性Dコース 20,000円
胃がん検診（間接）	バリウムによる胃のエックス線検査	○		○	
胃内視鏡検査	内視鏡による食道、胃、及び十二指腸の検査		○		○
大腸がん検診	免疫学的便潜血検査（スティック二日法）	○	○	○	○
肺がん検診	胸部のX線検査と喀痰細胞診検査	○	○	○	○
前立腺がん検診	採血によるPSA（前立腺特異抗原）検査	○	○	○	○
腹部超音波検査	超音波による肝臓、胆のう等の検査			○	○

女性にオススメのコース　4つのコースからお選びください。　例えば約40%OFF!

検診内容		女性Aコース 20,000円	女性Bコース 25,000円	女性Cコース 25,000円	女性Dコース 30,000円
胃がん検診（間接）	バリウムによる胃のエックス線検査	○		○	
胃内視鏡検査	内視鏡による食道、胃、及び十二指腸の検査		○		○
大腸がん検診	免疫学的便潜血検査（スティック二日法）	○	○	○	○
肺がん検診	胸部のX線検査と喀痰細胞診検査	○	○	○	○
子宮がん検診（頚がん）	頚部細胞診、腟鏡診、超音波検査（子宮・卵巣）	○	○	○	○
乳がん検診	マンモグラフィー、または超音波検査（年齢による）	○	○	○	○
腹部超音波検査	超音波による肝臓、等　検査			○	○

ご寄付をいただいた個人・法人

2011年6月1日~2011年11月30日受付分
順不同・敬称略

■篤志寄付金

みやぎよろこびの会若柳支部、センター募金箱

■賛助会員（議会）

塩竈市議会、白石市議会、名取市議会、多賀城市議会、岩沼市議会、蔵王町議会、大河原町議会、村田町議会、柴田町議会、丸森町議会、松島町議会、七ケ浜町議会、利府町議会、大郷町議会、色麻町議会、涌谷町議会、登米市議員会

■賛助会員（仙台市議会）

鈴木繁雄、小山勇朗、石川建治

■賛助会員（法人）

熱海建設株式会社、渥美工業株式会社仙台支店、有限会社岩沼屋ホテル、株式会社イメージパーク、石巻魚糧工業株式会社、株式会社一ノ蔵、有限会社上杉会計事務所、有限会社おでん三吉、小野薬品工業株式会社仙台支店、株式会社小田島、奥山工業株式会社、勝山企業株式会社、株式会社鐘崎、カメイ株式会社、株式会社河北仙販、上西産業株式会社、株式会社銀座薬局、クレア工業株式会社、株式会社グリーンハウザー、弘進ゴム株式会社、株式会社小山商会、今野税理士事務所、気仙沼商工会議所、笹氣出版印刷株式会社、三宝物産株式会社、株式会社三陸新報社、株式会社佐々直、株式会社佐浦、株式会社白松がモナカ本舗、株式会社ショクテン、塩野義製薬株式会社仙台分室、塩釜商工会議所、塩釜ガス株式会社、志津川オリエント工業株式会社、仙南信用金庫、株式会社仙台カントリークラブ、仙台弁護士会、株式会社仙台放送、株式会社シーエス･オペレーションズ、仙建工業株式会社、宮城中央ヤクルト販売株式会社、白石商工会議所、第一貨物株式会社仙台東支店、武田公認会計士事務所、ツバキ薬局、あすか製薬株式会社東北支店、東北放送株式会社、東北インフォメーション・システムズ株式会社、学校法人東北工業大学、アルプス電気株式会社古川工場、東北特殊工業株式会社、東北福祉大学、東邦アセチレン株式会社仙台事業所、常盤洋紙株式会社、常盤化工株式会社、株式会社ウェルネス伯養軒ケータリング営業部仙台支店、東日本興業株式会社、宮城商事株式会社、株式会社藤崎、株式会社文化堂、有限会社ふじや千舟、古川商工会議所、株式会社マコモ、松田産業株式会社、東北労働金庫、宮城県中小企業団体中央会、株式会社宮城テレビ放送、社団法人宮城県宅地建物取引業協会、宮城石灰工業株式会社、学校法人朴沢学園、株式会社メガネの相沢、株式会社ヤナセ東北、株式会社山下設計東北支社、株式会社渡辺採種場、ワタヒョウ株式会社、涌谷観光株式会社、有限会社アツミ自動車、株式会社ヨコハマタイヤサービス東北、株式会社羽田電機工業所、七十七コンピューターサービス株式会社、株式会社ダイコクヤ、宮交自動車整備株式会社、東興産機株式会社、仙台和光純薬株式会社、株式会社石井組、コヤマリネン株式会社、株式会社ビー・プロ、宮城県自動車事業協同組合、仙台画像検診クリニック、ダスキンタカハシ、東日本メディカルシステム株式会社、仙台コカ・コーラボトリング株式会社

■賛助会員（医師会）

仙台市医師会：阿部信彦、相田光保、伊藤益次、石田望、井上廉、五十嵐彰、猪股紘行、伊藤義郎、井上重夫、いずみクリニック、道又勇一、今井克彦、五十嵐稔、遠藤文雄、及川浩助、大宮光昭、大岡勇祐、大澤寛寿、小野寺英朗、奥田宜弘、阿部郁夫、伊藤賢司、石田一彦、池内廣重、遠藤潔、加藤俊和、川嶋聰、貝山仁、角安雄、下田茂、鬼怒川雄久、北川正伸、菊地宏子、菊地喬、北村龍男、桑野昭彦、草野仁、小林守治、小林正資、佐藤裕也、佐々木正躬、佐藤悳郎、櫻井潔、佐藤弘房、佐藤茂、佐々木晴邦、塩澤正博、大内憲明、仙台オープン病院、佐藤英幸、佐藤玄徳、椎葉健一、齋藤親弘、高柳義伸、玉置拓夫、多田和弘、武山恒男、千葉守、髙橋克、塚本二郎、武田鐵太郎、豊田隆謙、長池文康、長島道夫、中條仁、根本武士、野口哲平、長谷川桂子、長谷川純男、早川哲夫、早坂得良、舟田彰、藤木榮、堀克孝、堀田髙秀、星宏紀、本間英男、藤田直孝、町田晶子、宮田隆光、森俊彦、師研也、松野正紀、森元富造、山家喬、矢内謙、安田恒人、山本敏行、山本吉雄、結城隆俊、李茂基、渡邊睦生、妹尾重晴、今井克忠、榛澤清昭、松原修二、山形倫、曽根眞一郎、今野豊、大方俊樹、今村幹雄、宮崎豊、本島正、山口尚

白石市医師会：三浦義邦、浅野俊弘、梅津佳英、本多三學

柴田郡医師会：みやぎ県南中核病院、大沼利行、河内三郎、山家誠、太田繁興

角田市医師会：三浦徳之、高山敦、横山正和、小川俊哉

塩釜医師会：赤石病院、池野暢子、今井信行、岩井修一、氏家紘一、遠藤義晃、小野寺仁至、及川潤一、大井康、大井知教、小幡正明、金俊夫、齋恒夫、坂総合病院、塩釜医師会消化器部、塩竈市立病院、菅原伸夫、杉山健二郎、鈴木健史、鈴木室生、関晴夫、関口澄雄、関口淳一、仙塩総合病院、高橋晋、高橋輝兆、冨永泰之、中山大典、沼崎典明、林義峰、平澤善久、平澤頼久、藤野茂、藤谷浩、本間正明、松島病院、緑ヶ丘病院、宮城利府掖済会病院、宮田幸比古、無量井泰、山田憲一、渡辺広己、井筒憲司、黒澤久三、薗部太郎、鈴木ヒトミ、渡辺孝志、遠藤英敬、小片邦穂、藤原竹彦、真栄平昇、横山義正、高橋裕一、角田和彦、小鷹日出夫、鈴木隆志、佐々木泰夫、大井嗣和、杉山幸一、加瀬クリニック

亘理郡医師会：熊谷明、佐藤博俊

名取市医師会：名取中央クリニック、守昭夫、丹野兼夫、金澤義彦、小林芳江、桑島一郎、曽我内科こどもクリニック、佐藤滋

黒川郡医師会：公立黒川病院、大平千秋

加美郡医師会：伊藤明一、鈴木治、中川祐輔、加美郡保健医療福祉行政事務組合会計管理者、赤間良和

大崎市医師会：木幡光彰、佐藤和朗、高橋伸彦、森紘子、大崎市民病院岩出山分院、青沼巌、小野寺敦、渋谷昌良、大崎市民病院鹿島台分院、中川公夫、三浦裕一、近江徹廣、宮下英士、小野玲子、岩渕仁寿、渡辺麟也、千葉徹、沼田功、大久保孝一

遠田郡医師会：野崎公男、佐々木和義、美里町立南郷病院

桃生郡医師会：簡野整毅、舘田要、真壁道夫、伊東正一郎、やもと内科クリニック

石巻市医師会：阿部洋一、相沢正俊、伊藤健一、内海正晴、川原田衛、川村尚道、小林龍夫、樹神学、佐藤信男、坂井武昭、高橋邦明、舘田治、中嶋正彦、二宮以義、箕田昌道、矢崎春彦、田中典和、飯沼一宇、石巻市立牡鹿病院、久門俊勝、渡邉祐、川原田博章、舛眞一

登米市医師会：佐藤尚、佐藤厚史、登米市立登米市民病院、湊敬一、八木秀次、八嶋徳吉、遊佐不三雄、登米市立豊里病院、田中悟、登米市立よねやま診療所

栗原市医師会：佐藤自伸、栗原市立栗駒病院、熊坂久子、佐藤政子、佐々木裕之、栗原市立栗原中央病院、渡邉泰、栗原市立若柳病院、菊田公一、佐々木浩、三浦正明

岩沼市医師会：青木恭規、中川榮子、廣木貞一、緑の里クリニック

■賛助会員（個人）

我妻宗夫、阿部純二、阿部絹枝、安達三郎、荒木昭、阿部英見、伊藤孝子、石井よね子、犬飼健郎、猪狩惺、五十嵐光子、岩田孝夫、岩田恒一、越後愛子、江刺洋司、及川力、織田信夫、尾坂芳夫、亀岡直樹、亀谷英輝、亀田玲子、片岡秀雄、加藤登之男、加藤暢郎、木村冨士、北村優、橘川光男、熊谷豊吉、小松亀一法律事務所、小林茂夫、佐藤孝之助、佐藤たま、代理店北斗佐藤不二夫、佐伯晴郎、佐々木海風、佐野國男、坂田雄一郎、澤田幸男、志賀宣子、島田平八、鈴木昭子、菅井正治、鈴木セツ子、曽根清秀、高橋治、竹内暢子、千葉勝雄、藤代大、嶺栄松、松坂英明、三島卓郎、村岡景隆、森健一、山口正一、嶋美香、小川七三、我妻幸充、青木俊子、丹治静、勅使瓦伸子、市川信昭、山口正彦、菊池きい、泉あさの、武田信夫、鈴木文六、佐藤長三、佐藤好子、髙橋龍郎、村上卓也、阿部せつ、海川ヒデ、加美ひさ、阿部美代子、齋藤多見恵、後藤公美、内海春壽、佐藤さと子、田中一寿、桑折智夫、髙橋順子、笹原啓子、後藤みよ子、中沢きく子、門間典子、岡嶋徹、高橋了子、髙橋敬一、久保田光子、萩田みつ子、菅原喜美子、若生則子、三浦みよ子、丹野きやう、五島さよ子、木村亨、土井敏暉、小野千代子、安海こう子、髙橋正子、戸田フミ子、阿部はつ江、阿部信子、安住泰子、阿部美津江、阿部かしく、亀山米子、辻るみ子、三浦たつ子、乙坂ひで、佐々木博司、安住いせ子、関口清、郡山芳治、皆瀬明、佐藤京子、田代耕平、鈴木八郎、八島ふみ、櫻田寛、櫻田孝子、高橋久子、村上裕重、石黒典子、湯田教恵、井上眞由美、伊東信吉、三塚篤、布田直樹、千坂みゆき、村上裕一、中川朋美、三部哲也、桃井貞夫、高橋啓、泉田京子、菊地章子

■賛助会員（特定）

株式会社テクニカルラボ、大友クリーニング店、株式会社サン・ベンディング東北

■賛助会員（みやぎよろこびの会）

伊藤寛子、阿部まさ子、小松清志、佐々木春子、伊藤達雄、宍戸玲子、引地君子、大塚吉雄、清野静子、千石よし子、川嶋國雄、佐々木淑子、及川満子、石川司之、髙橋孝男、狩野せきよ、大友キクエ、佐藤幸、佐々木二治男、千葉か津子、阿部強、浅田仁一、岩渕孝志、菅間和子、菅原七郎、佐々木新治郎、高橋ツギ子、小野寺久幸、高橋久司、我妻百合子、板垣髙男、春日睦子、浅井壽子、石川りよ、西條功

■賛助会員（宮婦連）

七ヶ浜町婦人会：鈴木弘子、渡辺静枝、鈴木洋子、稲妻真知子
石越町婦人会：富塚節子、千葉秀子、二階堂行子
一迫婦人会：熊本美代子、大橋たつ子、沖田揚子、氏家あい子、小山ますえ、菅原きよみ、曽根真子、佐藤とよ子、熱海しげ子、熊谷初美
岩出山婦人会：佐々木光子、高橋瞭子、大山あさ子、飯田延子、中村興子
岩沼市婦人団体連絡協議会：本間英子、櫻井まさよ、吉田八重子、渡辺成子、髙橋たづよ、大村純子、小関寛子、岩間かつ江、吉田弘子、相原好子、菊地かつ子、酒井美枝子、残間洋子、小貫英子、富沢令子
鶯沢婦人会：小野寺美重、鈴木民子、髙橋ちよ子、髙橋龍子、千葉たつ子
女川町婦人会：鈴木典子、横内静子、飯塚律子、安住裕子、阿部とまえ、阿部その子、須田悦子、近藤くに子、岸サワ子、平塚とみ子、阿部けい子、木村あさえ、小山栄子、高橋京子、伊藤文子、木村孝子、遠藤りえ子、遠藤キイ子
大衡村婦人会：遠藤淑子、遠藤つや子、堀込幸子
東小野田婦人会：西塚とも子、伊藤ヒロ子、伊藤栄子
大郷町大谷婦人会：高橋一子、宮本なを子
大郷町大松沢婦人会：木村静子、高橋みや子
角田市地域婦人会：鎌田三千子、森愛子、遠藤美代子、菅原よし子、太田美也子、玉手富美子、加川昭子、保志都、仙石茂子、保志とみ子、菅野せつ子
鹿島台婦人会：佐藤孝、小堤キエ子、久道カヨ子、金澤とよの、栗田正子
金成婦人会：千田京子、鈴木常恵、髙橋あき子、渡辺和子、菅原かつゑ、石川セイ子、石川昌子、小岩久子、菅原ケイ子、佐藤繁子
鳥矢崎地区婦人会：千田かつみ、千葉つる子、大場知子
遠田郡婦連：瀧川澄江、大村涼子、寺尾登茂代、御守克子、中村ゆり子、相沢孝子
岩ヶ崎地区婦人会：佐藤秋子、加藤芙佐子、千葉怜子
栗駒婦人会：佐藤愛子、菅原シゲル、菅原みね子、菅原ヤチヨ、狩野みさ子、菅原勝子、菅原たち子、菅原嘉子
栗駒姫松地区婦人会：菊池清子、氏家ふみ子、佐藤政子
三本木婦人会：中山泰子、森時江、斉藤はるゑ
塩釜市婦人会：浅野ひろ子、菅原盛子、我妻キクエ、佐々木和恵、瀬戸勝子、佐藤文子、中村和子、石川とし子、三浦あい子、阿部かほる、内海みな子、小野和恵、阿部豊子、鈴木綾子、千葉栄子、鈴木禮子、田中さよ子
柴田郡婦人会連合：佐藤トシ、竹野幸子、佐藤房子、水戸和子、遠藤勝江、八巻まし子、高橋敏子、髙橋智恵子
志波姫婦人会：菅原智恵子、尾形郁子、高橋かよ子、堀越勝子、高橋あき子、佐藤光子、相馬桂子、高橋俊子、伊藤陽子、鈴木まさ子
白石市地域婦人団体連絡協議会：佐藤常世、山田チヨ子、阿部初子、朝熊きくえ、大森りつ、菊地とみ、桜田成子、長崎久美子、山田テル子、佐々木鏡子、田口洋子、米澤祥子、榊原きり、小田部栄子、栗原幸江、真壁治子、吉川淑子、長谷川とよ子、島貫千代子、日下恵美子、星野照子、阿部ゆり子、村上良子、高橋きみ子、佐藤あさ子、佐藤洋子、高子せつ子、佐久間和子
色麻町婦人会：佐々木りえ子、菅原知恵子、佐々木やす子
中田婦人会：三浦しん、柴田慧、吉田節子、佐藤頼子、畠山暉子、五嶋敬子、佐藤千賀子、石川クニ子、堀内悦代、熊谷タヘ子、佐々木カジ子、畑山信子、佐々木やゑ子、野家範子、黒田容子、佐藤清子、三浦節子
豊里町婦人会：八木しみ子、大友秀子、大槻とみ子、佐々木みつ子、石川てる子
多賀城市婦人会連合会：渡辺とめ、遠藤かつ子、菅井史子、桜井やえ子、酒井和子、赤井つや子、松田允子、平山千秋、渡辺ゑな子、星繁子、庄子よし江、平山照司、鈴木絹子、白濱宣子、稲葉愛子、田母神充代、堀米喜代子、今野絢子、浦山さつ子、千葉三津子、大友良子、佐藤聰子、伊藤マサ子、伊藤両子、桜井昌子、鈴木誠子、小野くに子、門田昭子、西とし子、熊谷紀子、鈴木臣子、菊地キミ、加藤たき子、後藤みよ子、相沢良子、笹原うた子、菊田百合子、伏見とよ子、武中悠子
大和町鶴巣婦人会：髙橋征子、藤倉多香、小野啓子
大和町宮床婦人会：浅野よし江、藤田たか子、石垣陽子
大和町吉田婦人会：堀籠さと子、早坂真知子、堀籠美江子

名取市婦人会連合：斎藤栄子、橋本公子、渡辺勝子、三浦よね子、佐藤久子、本郷セイ子、相澤重、太田恵美子、佐々木智子、江口清子、高橋あつ子、渡辺洋子、齋藤重子、高橋志津枝、大久あき子、高橋ケサエ、斎藤敬子、渡辺八重子、伊藤よし子、佐藤美恵子
鳴子地区町内会婦人連絡協議会：高橋みよ子、遊佐由起子、髙橋絢子、大崎洋子、馬場玲子、横谷千枝子、中鉢照子、鎌田りく子、小山信子、尾形和子、池田史、大江二三子、只野勝子
北方婦人会：鈴木洋子、鈴木礼子、東ゆき子、伊藤市子、遠藤きよせ、三浦艶子、皆川洋子、富士原抄子
花山婦人会：千葉ゑさ子、三浦妙子、千葉ちゑみ、鹿野麗子、菅原加津子、佐藤ノブ子、中鉢涼子、佐藤敏子、狩野好子
古川地婦連：大友富子、鈴木ゆう子、相澤くに江、菅原末子、熊谷弘江、佐々木登貴子、岡本道子、永塚正子、佐々木國子、西村信代、晴山たえ子、阿部みえ子、門脇文孔、木村一枝、木村洋子、千葉すみ子、高橋輝美、佐々木之子、門脇宗子、鹿野孝子、佐々木征子、渡辺くに子、佐藤ひろ子、平山かつみ、紺野京子、高橋ますゑ、石川まさ子
松山婦人会：佐々木あい子、大友紀、尾口淳子、川江礼子、小野政子、小関裕子、細川みどり
宮崎婦人会：石橋定子、早坂幸子、熊谷ひさ子
舘矢間婦人会：佐藤智子、浅田隆子、宍戸照子、水沼冨久子、横山ちまよ、佐藤貞子、佐藤伸子、田口秋子
小斉婦人会：天野八重子
丸森婦人会：小野つや子
金山婦人会：佐藤久美子
米山婦人会：小松れい子、佐々木邦子、只野あい子、渥美昭子、三浦きさ子、佐藤ヒサ子、髙橋ひさよ、菅原靖子、橋本栄子、佐藤てる子、佐藤たみ子、沢内恵美子、佐藤なほ子、加藤京子、水野トヨ子
大塩婦人会：眞籠聖子、須田栄子、高橋沙代、桜井あや子、渥美静子、野村たま子、髙橋治子、片倉深谷子
東松島市矢本婦人会：三浦絢子、阿部京子、菅原湛子、相澤数子、青木恵子、奥田りえ子、大江すみ子、戸田里、三浦亨子、菅原啓子、菊地モト、佐藤豊子、津田美枝子、小山淑子、佐藤多喜子、豊島敬子、五野井文子、菊地翼子、西潟寿美、平塚和子、浅野美枝子、田中敬子、曽根悦子
若柳婦人会：上田泰子、今野とし子、菅原てるよ、木川田悦子、中島とめ子、島田登喜子、佐藤律子、長澤満喜子、阿部てつ子、石川隆子、菅原茂子、高橋八重子、菅原聡子、菅原留子、岩渕美代子、菅原きよ子、二階静子、高橋まし子、千田起久子、小野寺温子、高橋幸子、武田てる子、千葉智恵子、只見倫子
亘理町荒浜婦人会：濱野かじ子、阿部ミヤ子、宍戸都賀子、馬場道子、橋本貞子、齋藤タミ、佐藤冨美子、武者信子、鎌田安子、宍戸ひろ子、森恵子、永浜由紀子
亘理町亘理婦人会：小泉えみ子、若松捷子、佐藤キクヨ、渡辺みつ江、高橋泰子、齋藤クニ、齋藤アキ子、佐々木千恵子、那須せつ子、菊地洋子、岩見富子、佐藤節子、丹野敦子、三戸部とし江、小野寺貞子、金沢桂子、太細日出美、戸引よし子、尾形ミエ子、佐藤まさ子、松本あや子、相原成子、佐野みさゑ、馬場さえ子、佐藤照子
亘理町逢隈婦人会：八巻富士子、南條繁子、渡辺禮子、加藤久美子、三品せつ、佐藤祐子、猪又和子、今野秀子、菱沼和子、三品輝子、三品まき子、横山とみ子、猪股和子
亘理町吉田西部婦人会：半澤慶子、大槻かづ子、小野節子、大河原正子、松山芳子、安藤和子、大河原みつ子、玉田しげ子
亘理町吉田婦人会：本間利子、齋藤かつよ、宍戸浩子、岩佐美津子、岩城和子、鈴木和子、岩佐直子、千葉きよ子、丸子常代、丸子加代子、齋藤律子、佐々木ミヨ、丸子みね子、齋藤桂子、丸子信子、小野美佐子、門馬久美子、鈴木好子、丸子きみ子、大堀トモ子、浅川純子、浅川きよ子、木田好子、横山宣子、浅川えつ子、森美奈子、丸子明美、小野典子、小野礼子、葉坂嶺子、佐藤トシ子、鈴木和子、高橋加代子、森智子、渡辺光子、丸子恵美子

対がん運動　ご支援をお願いいたします。

賛助会員
- 個人会員／1口＝1,000円
- 医師会員／1口＝10,000円（1口以上で上限はありません）
- 法人会員／1口＝10,000円

一般寄付
- 金額の多少に関わらずお受けいたします。
- 寄付については税金の免除の証明書が発行可能です。

［銀行口座名］財団法人宮城県対がん協会　［銀行名及び口座］七十七銀行本店（普）0123722　お問い合わせ　法人事業課　TEL:022-263-1637

賛助会員（個人・法人）への継続寄付のお願い

1. お寄せいただきました寄付金は、検診事業とは別に公益事業に資するものとして右記に示したとおり普及啓発の広報活動や研究事業等に活用させていただきます。

2. 寄付の種類

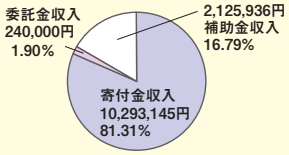
1）継続寄付（賛助会員）
本会の趣旨に賛同し、毎年継続して寄付をしてくださる個人の方を「個人賛助会員」、会社など法人で寄付をしてくださる場合を「法人賛助会員」としています。また、寄付金の額を定めてがん征圧運動に一層の協力、支援をお願いする法人を「特定維持会員」としています。

2）一般寄付
継続寄付とは別に、篤志寄付金として随時お受けいたします。

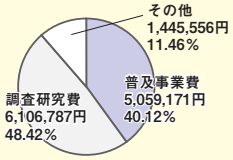
免税措置
当財団は、「特定公益増進法人」であることの認定を宮城県よりうけております。お寄せいただきます寄付金は、旧所得税法施行令第217条第1項第3号及び旧法人税法施行令第77条第1項第3号に規定された寄付金として免税措置を受ける事が出来ます。

平成22年度の公益事業を管理しております法人本部会計から、寄付金収入とその支出内容を抜粋して作成しております。なお、収入と支出の差は、次年度への繰越金となっております。

収入合計 12,659,081円



支出合計 12,611,514円



平成22年度寄付金等の収入とその支出状況

◉収入項目内訳
- **寄付金収入**
  賛助会員からの継続寄付、特定寄付金、篤志寄付金
- **委託金収入**
  がん征圧月間補助金委託金
- **補助金収入**
  日本対がん協会からの補助金等

◉支出項目内訳
- **普及事業費**
  各種パンフレット・リーフレットの作成、機関紙の作成・発送等
- **調査研究費**
  東北大学研究委託助成金、がん登録事務費
- **その他**
  管理費等

平成24年度
「黒川利雄がん研究基金」
研究助成金希望者募集

この基金は、当協会の初代会長である故黒川利雄先生の遺志を継ぎ、がんの予防及び早期発見、治療に関する技術の開発等に係わる若手研究者に対し、研究助成を行うことを目的に平成元年に創設されました。平成 23 年までに、96 人に対し 6,250 万円の助成金を交付しています。

1　研究対象分野と応募資格

我国のがん予防および早期発見に関する技術の開発等、がん対策に係わる研究を行う50歳未満の個人および団体で、以下の研究分野を対象とする。

（1）がんの疫学および集団検診に関する調査・研究・開発
（2）がんの早期発見および治療に関する調査・研究・開発

2　申請手続き

申請者は宮城県対がん教会の理事または、貴所属長の推薦を受けた者とする。

3　応募件数および推薦件数

1個人・1団体または共同研究グループで1件とし、推薦件数も1人1件とする。

4　助成金の額

助成総額は**220万円**とし、研究助成金1件あたり**100万円**を限度とする。

5　応募手続き

応募希望者は下記宛に**ハガキ**または **FAX** で申し込むか、当協会ホームページより**申請書類をダウンロード**の上申し込むこと。

〒980-0011　仙台市青葉区上杉5丁目7番30号
財団法人　宮城県対がん協会　「黒川利雄がん研究基金」事務局　宛
TEL 022-263-1637　FAX 022-263-1548　http://www.miyagi-taigan.or.jp

6　募集期日

【公　　募】　平成24年1月　　【応募締切り】　平成24年3月末日

7　発表交付

【発　　表】　平成24年5月　　【交　　付】　平成24年6月

編集・発行／財団法人 宮城県対がん協会法人事業課 〒980-0011 仙台市青葉区上杉五丁目7-30 TEL:022(263)1525 FAX:022(263)1548
ホームページアドレス:http://www.miyagi-taigan.or.jp　Eメールアドレス:office@miyagi-taigan.or.jp